

## 1 理念・目的・教育目標

### <組織・課程の概要>

「学芸員資格取得」は、大学の学部学科での学問を前提に、資史料に関する知識と経験を積み、学芸員資格を取得することを目標として、「学芸員資格取得に関する委員会」によって運営される。委員会は、大学専任教員の内から選任される委員長、法学部、経済学部、文学部、理学部から各1名選出される委員4名、教務部長によって構成される。また、書記として教務課職員、学芸員資格取得事務室の事務を兼務する史料館の学芸員も出席している。

「博物館に関する科目」は、主として非常勤講師が担当し、一部を本学専任教員、史料館助教が担当している。

### (理念・目的等)

**A群 理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性**

**A群 理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性**

「学芸員資格取得」は、文化と社会教育を担う学芸員の養成とその理念について詳しい説明をするため、毎年、学芸員資格取得広報誌『学芸員』(Bulletin for Curator's Course)を発行し、学内外に対して「学芸員資格取得」の現状を広報している。

広報誌には、「学芸員資格取得」からのメッセージ、現職学芸員の職場紹介、博物館実習を終えた学生の体験記などが掲載されおり、博物館に関する科目を履修する学生へのアドヴァイスとしての有効性は高い。

「学芸員資格取得」は、博物館に関する科目を履修する学生、博物館実習を行う学生に対し、ガイダンスを行っている。そこでは、履修に必要な単位や実習内容などについての説明がなされており、先述の広報誌もテキストとして配布され、教育効果を高めている。また、学芸員資格取得事務室において、個別の対応も行っている。

## 2 教育内容・方法等

【目標】 「学芸員資格取得」では、博物館学や歴史・美術・自然科学など博物館に関する基礎知識の修得、資史料の取り扱いや展示方法などの技術を修得し、文化と社会教育を担う学芸員の養成を目標としている。

### (1) 教育課程等

#### (教育課程)

#### A 群 理念・目的や教育目標との対応関係におけるカリキュラムの体系性

「博物館に関する科目」は、博物館学、博物館資料論、生涯学習概論、教育学原論、視聴覚教育メディア論、文化史特殊講義、資・史料整理法、美術史講義、美術史特殊研究、考古学、自然科学史、力学基礎、電磁気学、無機化学、有機化学、地学概論、生物学概論などが開講されている。一口に学芸員といっても博物館・美術館・動物園・水族館などの各種館園があり、また本学は4学部からなる総合大学であるため、学生の専門分野も多岐にわたる。多種多様な分野に実践的に対応するため、幅の広い体系性のあるカリキュラムが適切に編成されている。

#### (履修科目の区分)

#### B 群 カリキュラム編成における、必修・選択の量的配分の適切性、妥当性

学芸員資格取得には、必修15単位、選択8単位が必要である。必修・選択ともほとんどが2～4年次に履修するものであるが、1年次から履修可能な科目も少なくない。必修科目は6科目が用意されている。選択科目は9系列14科目が用意され、そのうち2系列以上にわたり2科目8単位を修得しなければならない。以上、必修・選択の量的配分は適切かつ妥当である。

#### (開設授業科目における専・兼比率等)

#### B 群 全授業科目中、専任教員が担当する授業科目とその割合

#### B 群 兼任教員等の教育課程への関与の状況

「博物館に関する科目」は20科目開講されているが、専任教員の担当は2科目で、全体の1割となっている。兼任教員の教育課程への関与はない。

#### (生涯学習への対応)

#### B 群 生涯学習への対応とそのための措置の適切性、妥当性

#### B 群 正課外教育の充実度

特に生涯学習への対応は行っていないが、卒業後の学芸員資格取得の要望には、科目等履修生となることによる資格取得など、その方途を適切にアドヴァイスしている。

## (2) 教育方法等

### (教育効果の測定)

**B群** 教育上の効果を測定するための方法の適切性

**B群** 教育効果や目標達成度及びそれらの測定方法に対する教員間合意の確立状況

**B群** 教育効果を測定するシステム全体の機能的有効性を検証する仕組みの導入状況

教育効果の測定は、各授業のレポートや実務実習の際に記述される実習記録ノートなどによって行われており、効果測定のシステムや制度は存在しない。また、教育効果に関する教員間の合意についても特にシステムや制度は存在しない。ただし、学芸員資格取得事務室が教員・学生・実習先の館園の連絡を調整しているため、ここが機軸になって教育効果の情報を集積し、教員へもそれを提供している。

**B群** 卒業生の進路状況

学芸員としての就職状況は厳しい状態にあり、卒業直後に博物館に就職することはほとんどない。しかし、大学院修了後あるいはインターンを経験した後に学芸員として採用されたり、地方公務員に採用された後、学芸系部局に配属されることも見受けられる。本学での資格取得者約 2400 名の内、約 5%が学芸員または学芸系職員についており、これはきわめて良好な数字といえよう。

**C群** 教育効果の測定方法を開発する仕組みの導入状況

**C群** 教育効果の測定方法の有効性を検証する仕組みの導入状況

**C群** 教育効果の測定結果を基礎に、教育改善を行う仕組みの導入状況

教育効果の測定方法を開発する仕組みは導入されておらず、今後も導入予定はない。教育効果は、実務実習における実習記録ノートの記述や授業で練習される史料取り扱いの様子から教員が推し測っている。そして、教員や学生の意見を学芸員資格取得事務室が集約し、適宜「学芸員資格取得に関する委員会」に報告し、教育改善に反映されている。

### (厳格な成績評価の仕組み)

**A群** 成績評価法、成績評価基準の適切性

成績評価法、成績評価基準について特に明文化されたものはないが、授業数の 3 分の 1 を欠席した場合、単位は認められない。成績は、出席に加え、授業態度・発言、レポート、試験、実務実習の際に記される実習記録ノートなどを総合して評価している。

**B 群 厳格な成績評価を行う仕組みの導入状況**

**B 群 各年次及び卒業時の学生の質を検証・確保するための方途の適切性**

学芸員資格認定に関しては、「学芸員資格取得に関する委員会」により資格認定会議が開催され、規程単位の修得、実務実習の終了、学士号の取得を確認した上で、資格を認定している。

各年次・卒業時の学生の質を検証・確保するシステムは存在しないが、学芸員資格取得事務室が行う複数のガイダンスや個別の対応によって、学生の質を検証し向上させている。

**B 群 学生の学習意欲を刺激する仕組みの導入状況**

学内の博物館相当施設である史料館の所蔵史料を扱ったり、豊富な教材を用いた授業を行い、知識の修得と実践を兼ねたカリキュラムとなっている。また、広報誌『学芸員』において、資格取得者の博物館実習体験記を写真ともに掲載したり、「考古学」など本学にない学科の科目を取り入れたりすることで、学習意欲を刺激している。

**(履修指導)**

**A 群 学生に対する履修指導の適切性**

「学芸員資格取得」では、毎年履修ガイダンスを行い、学生に対し資格取得に関する科目の履修指導を行っている。また、資格取得の最終段階である博物館実習に向けて、複数にわたるガイダンス通じて、適切な履修指導を行っている。

**B 群 オフィスアワーの制度化の状況**

オフィスアワーの制度は存在しないが、学芸員資格取得事務室が月曜日から土曜日まで開室しており、実質的にオフィスアワーを担っている。

**C 群 科目等履修生、聴講生等に対する教育指導上の配慮の適切性**

科目等履修生、聴講生も、他の学生と同様にガイダンスに出席するように指導している。なお、仕事等の都合でガイダンスに出席できない場合は、学芸員資格取得事務室で個別の対応を行っている。

**(教育改善への組織的な取り組み)**

**A 群 学生の学修の活性化と教員の教育指導方法の改善を促進するための措置とその有効性**

**A 群 シラバスの作成と活用状況**

**A 群 学生による授業評価の活用状況**

シラバスは冊子体とウェブサイト版が作成され、どちらも各授業内容と年間スケジュール、参考文献などが記載されており、学生が履修を考えやすい内容となっている。冊子体

のシラバスは、履修ガイダンス時に配布し、ガイダンス時の履修説明に活用している。

学生による授業評価が年に2回実施され、各講師にその結果が通知されている。また、学芸員資格取得事務室には講師控室が隣接しており、学生・講師双方から授業の質を向上するための要望を聴取し、即座に対応できる体制を整えている。

**(授業形態と授業方法の関係)**

**B群 授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性**

**B群 マルチメディアを活用した教育の導入状況とその運用の適切性**

「博物館に関する科目」は、講義形式と実習形式の授業がある。どちらもパソコンやDVDなどの映像を用いて教育効果を高めている。画像・映像を使用することで、資史料を扱う前提としての基礎知識を蓄積したり、多種多様な博物館・美術館見学の特徴をヴァーチャルに体験したりすることができ、本科目に適応した方法であるといえる。

**(3) 国内外における教育研究交流**

**C群 教育研究及びその成果の外部発信の状況とその適切性**

教育研究の成果は、毎年発行される広報誌『学芸員』によって外部発信されている。ここでは、学外の館園での実務実習体験記のほか、学内の史料館での実務実習の様子が写真とともに掲載されており、学内・一般へ向けてわかりやすい成果発信となっている。

### 3 教員組織

【目標】 文化と社会教育を担う学芸員の養成のため、多種多様な博物館・美術館に対応でき、かつ理論・技術の両面に配慮した教員組織を目標とする。

#### (教員組織)

**A 群** 理念・目的並びに教育課程の種類・性格、学生数との関係における教員組織の適切性

**A 群** 主要な授業科目への専任教員の配置状況

**A 群** 教員組織における専任、兼任の比率の適切性

**A 群** 教員組織の年齢構成の適切性

歴史・美術・自然科学など各分野の専門性を考慮した教員配置となっている。また「博物館実習」の授業は、資史料の取り扱いを実際に行うため、十数名のクラスを6クラス用意し、個別指導がいきわたるように配慮されている。

開講されている「博物館に関する科目」20科目中、専任教員が担当しているものは1割であり、ほとんどの授業が30代から40代の非常勤講師によって担当されている。教員の兼任はない。

**B 群** 教育課程編成の目的を具体的に実現するための教員間における連絡調整の状況とその妥当性

教員間の連絡調整は「学芸員資格取得」がこれを担っている。教材・実習室の振分けのほか、実習クラスの編成に至るまで、各教員の意見を集約し、適切な調整を行っている。

**C 群** 教員組織における社会人の受け入れ状況

**C 群** 教員組織における女性教員の占める割合

「博物館に関する科目」を担当する教員は約20名であるが、そのうち女性教員は約半数を占めている。

#### (教育研究支援職員)

**A 群** 実験・実習を伴う教育、外国語教育、情報処理関連教育等を実施するための人的補助体制の整備状況と人員配置の適切性

**A 群** 教員と教育研究支援職員との間の連携協力関係の適切性

実習などの人的補助は、史料の取り扱いに熟達している学芸員資格取得事務室や史料館の学芸員がこれにあたっている。

**(教員の募集・任免・昇格に対する基準・手続)**

**A 群 教員の募集・任免・昇格に関する基準・手続の内容とその運用の適切性**

「博物館に関する科目」を担当する教員は、「学芸員資格取得に関する委員会」と関連する教授会の議によって決定されており、適切に運用されている。

**B 群 教員選考基準と手続の明確化**

**B 群 教員選考手続における公募制の導入状況とその運用の適切性**

教員選考における公募制は導入されていない。教員選考基準について特に明文化などはされていない。ただし、教員選考にあたっては、研究業績のほか、博物館での勤務経験あるいは史料調査・整理などの実務経験が特に重要視されている。

**C 群 任期制等を含む、教員の適切な流動化を促進させるための措置の導入状況**

任期制などの制度的な導入はないが、教員の固定化を避けるため数年単位のローテーションを組み、委員会の判断に基づき、教員を流動させている。

**(教育研究活動の評価)**

**B 群 教員の教育研究活動についての評価方法とその有効性**

**B 群 教員選考基準における教育研究能力・実績への配慮の適切性**

(学校教育法第 58 条の改正に伴う新たな教員組織の整備)

**B 群 教育担当 (各授業科目における教育担当の状況とその適切性)**

**B 群 任免手続**

**B 群 教学運営への関与 (特に助教を中心に、カリキュラム改定や教員人事などへの関与状況)**

「博物館に関する科目」は、主として非常勤講師がこれを担当しているが、学校教育法第 58 条の改正に伴い、2007(平成 19)年度より学内の史料館助教も博物館実習を担当することになった。これら教員の任免は「学芸員資格取得に関する委員会」の議に基づき決定されている。

教員の研究教育活動については、研究論文、博物館等での実務経験、展覧会への関与、各大学への出講などから総合的に評価しており、これが教員の任免に際しても十分考慮されている。

## 4 研究活動と研究環境

【目標】 博物館のあり方や制度の変更に関する情報を収集すること、また、学術研究・保存科学・ミュージアムマネジメントの新しい成果を摂取することを目標とする。

### (1) 研究活動

(教育研究組織単位間の研究上の連携)

#### A群 附置研究所とこれを設置する大学・大学院との関係

「学芸員資格取得」は、本学の附置研究機関である史料館と密接に結びついており、史料館の収蔵史料および施設を利用しながら、実践的な教育を行っている。また、学芸員資格取得事務室も史料館が兼務することで、博物館実習の実習先を確保するなど、学生に対して多大な配慮がなされている。

ただし、史料館の教育施設は狭小であり、学芸員資格取得専用の実習室が必要である。その際には現状を考慮し、史料館と近接する形での施設の確保が課題となる。

### (2) 研究環境

(研究上の成果の公表、発信・受信等)

#### C群 国内外の大学や研究機関の研究成果を発信・受信する条件の整備状況

学芸員資格取得が収集する図録や研究書のほか、史料館が受け入れている各機関発行の逐次刊行物（年間約 500 件）を共同利用している。

## 5 施設・設備等

【目標】 「学芸員資格取得」に必要な適度なスペースの実習室を備え、史料館との連携により、支障のない業務を遂行できるよう施設を整備することが目標である。

### (施設・設備等の整備)

#### A 群 教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性

##### (利用上の配慮)

#### A 群 施設・設備面における障害者への配慮の状況

学芸員資格取得事務室は、その業務が史料館業務と兼務であることから、史料館内に設置されている。史料館が入っている建物は、1909(明治 42)年に建てられた木造の旧図書館である。いわば建物自体が一つの資料として大きな価値をもっている。また、実習室も整備されており、歴史性と機能性を兼ね備えた建物である。

博物館に関する科目は、大学の各教室と北別館（史料館）内の実習室、東別館の実習室で行われる。特に北別館と東別館は実習が行われる施設であり、各種史料・教材が準備されている。しかし、温湿度管理など、取り扱いに注意が必要な史料・教材が多いにもかかわらず、空調等の細かいケアが出来ない状態にある。また部屋自体の狭小も否めない。専用の保管庫と適切な面積を有した専用教室が必要である。

また、北別館・東別館ともに築年数 90 年を超える歴史的建造物であり、段差も多く、障害者に配慮された施設とは言い難い。現行の教室の改築は、歴史的建造物保存の立場からもこれ以上は困難であり、新教室を確保するよりほかに方策はない。

### (施設・設備等の整備)

#### B 群 教育の用に供する情報処理機器などの配備状況

##### (組織・管理体制)

#### B 群 施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況

#### B 群 施設・設備の衛生・安全を確保するためのシステム整備状況

北別館には、パソコン、ビデオプロジェクター、スクリーンなど、教育に必要なものは整備されている。パソコン・ビデオプロジェクターは鍵付きのロッカーに保管されており、その鍵は北別館内に事務室を置く史料館によって適切に管理されている。東別館の教材を収納しているロッカー及び教室の鍵も同様である。

北別館・東別館の実習室は定期清掃が行われており、清潔に保たれている。また、両教室とも木造のため火気の使用は厳禁となっている。非常時の脱出については、両教室が建物内通用口に近接しているため、安全確保の点でも問題はない。

(利用上の配慮)

**C群 各施設の利用時間に対する配慮の状況**

北別館の実習室が一つしかないため、史料館が受入れる博物館実務実習で実習室が使用されると、他の授業での使用が不可能となる。他の授業は教室での振り替えが可能であるため現在はこのような対応をしているが、不便であることは明白である。改善策としては、現行規模以上の実習室を複数確保することであるが、現在使用している建物の改築では無理であるため、新たな建物が必要と考える。

## 6 社会貢献

【目標】 学芸員は、博物館・美術館という研究・社会教育の施設における専門職員であり、その知識・技術の修得は、社会貢献に直結するものである。学芸員資格取得は、文化や社会教育の全体レベルを押し上げる人材を養成するため、就職の有無に関わらず、質の高い学芸員資格取得者を輩出することを目的としている。

### (社会への貢献)

#### B群 教育研究上の成果の市民への還元状況

社会教育の一端を担う博物館学芸員の資格取得を目指しているため、資格取得そのものが、教育研究成果の市民への還元であるといえる。もちろん、より質の高い資格取得者を送り出すために、文化・社会教育について体系的に整備された授業が行われている。

### (企業等との連携)

#### C群 大学と大学以外の社会的組織体との教育研究上の連携策

「学芸員資格取得」は、学芸員資格の取得を目的としており、その最終段階の博物館実習で実習生を受け入れる館園と密接な連携をとっている。全国の公立・私立の館園における実習を依頼するため、各館園との連携が必要とされているのである。

また、各館園からは、展示や保存科学などについて助言を得たり、意見交換をしており、教育研究上有意義な関係を築いている。

## 7 学生生活

【目標】 学芸員に関する就職やその他進路について学内外の情報を把握して学生に提供し、適切な進路指導をすることを目標とする。

### (就職指導)

#### A群 学生の進路選択に関わる指導の適切性

博物館学芸員の採用は厳しいが、インターンシップや大学院進学という進路もあるので、学生には掲示板や事務室において適宜情報を提供している。

#### B群 就職担当部署の活動上の有効性

「学芸員資格取得」には特に就職担当部署は存在しないが、職務上、就職に関する情報を得ることもあるので、それについては掲示板や事務室において適宜情報提供している。

#### C群 就職統計データの整備と活用の状況

博物館学芸員の採用は毎年あるものではなく、また新卒採用に限らず、異動などにもよるため、学芸員資格に関する就職数を把握することは困難である。ただし、卒業生からの申告などにより把握できたものについては、広報誌『学芸員』などで参考資料として掲載している。